

研究室のメインテーマ： 地域の人々の健康を守るための仕組みや、より効果的な教育介入の方策を見いだす。

主な担当講義科目： 疫学特論，疫学・統計演習，健康政策学特論，ヘルスプロモーション演習，保健医療福祉人材育成論



アンコールワットにて

2008年に研究室を立ち上げてから、博士前期課程9名、後期課程5名が、それぞれのテーマで論文を発表し、修了しました。現在は、前期課程3名、後期課程4名が在籍し、研究を進めています。

修了生、在学生の研究テーマ以下の通りです。

(博士前期課程)

- 生活習慣病リスク低減のための介入プログラムの研究デザインと報告の質に関する系統的レビュー
- 介護予防特定高齢者施策における栄養改善プログラムの現状と課題の検討
- 幼児期における咀嚼行動に関わる食育の効果指標の検討
- 児童の体格と地域特性に応じた食環境の評価法に関する検討
- 保育所における個人特性に合わせた栄養・給食管理業務の実践に向けた要因分析
- 国際協力における栄養改善活動でのプログラム評価に関する研究
- 特定健診の「標準的な質問票」を補う項目 - 若年成人男性を対象とした検討 -
- 回復期リハビリテーション病棟の脳卒中入院患者における栄養管理と退院時自立度との関連についての検討
- 成人男性のがん検診受診勧奨における新たなセグメントの特性分析と受診行動を促すキーワードの探索 - 行動科学理論とマーケティング手法を用いた調査 -
- 小学校における肥満傾向児への個別相談指導実施に関する促進及び阻害要因の検討



(博士後期課程)

- 出産前後における母親の食知識・食行動および生活習慣に関する研究
- 小児における咀嚼にかかわる行動変容を効果的に促す教育プログラムに関する研究
- Nutritional status of children and their mothers and its determinants in urban capital and rural highland in Papua New Guinea
- Grouped factors of the "SSADE; Signs and Symptoms Accompanying Dementia while Eating" and nutritional status: an analysis of older people receiving nutritional care in long-term care facilities in Japan
- 小児の野菜摂取を高める教育プログラムの包括的評価指標の開発
- Effectiveness of workplace self-weighting interventions through randomized controlled trial
- Development and validity of a food frequency questionnaire for school-aged children in Cambodia
- 高校生のヘルスリテラシーに関する研究 - 長命地域と短命地域の比較 -

管理栄養士、保健師の他、経済学専攻の学生などが、北海道、岩手、宮城、東京等からも来ています。社会人の学生が多いので、土・日曜日や祝日を活用してのゼミ（年に2、3回温泉宿に宿泊）を行っています。忙しい時間を使っての学習や研究ですので、どこにいても、効率よく勉強し、またゼミの仲間での研究のことを語り合いながら、美味しいものを楽しんでます。



ゼミ合宿@奥入瀬

大学院生（修了生）の声

病院管理栄養士の私が大学院に進んだのは、回復期リハビリテーション病棟の脳卒中入院患者の栄養管理と退院時自立度との関連について、栄養管理でどのようにアプローチすれば効果的かを明らかにし、医療の現場に還元したいと考えたからです。大学院生活は、年代の違う方達との交友、ゼミ合宿での熱き語り、教授のご指導は研究に対して大きな糧となりました。大学院は、学びが深まるため大いなる喜びでもあり、「考える」ことを学ぶ場所でもありました。在学中には国内や国際学会で発表する機会も得ました。今後も自分の仕事をアウトプットできるよう、臨床への応用を考えながら進めたいと思います。